

祈りの友 第209号

2026年7月

「天のビジョンに従う」

児童伝道者への神のご計画を理解する

第4章

私はふさわしくありません



サム・ドハティ
「…私は天からの幻に背かず
…」使徒の働き 26章 19節

私たちが持つべきは第一に神ご自身のビジョン（神がどのようなお方か）、第二に子どもたちを見るビジョン（子どもたちの霊的状态・必要）でした。子どもたちとその大きな霊的必要が見えてくると、神はしばしば私たちの心に語り、子どもたちの必要を満たす何かをするよう示されます。しかし、最初に湧いてくるのはたいへい「自分には無理だ」という不十分さの感覚です。「どうしたらこの国、この町、この地域の子どもたちをイエス・キリストへ導くことができるのだろう。自分のごく普通の人間で、訓練を受けたわけでもないし、経験も能力もほとんどない。こんな私を神さまは本当にお用いくださるのだろうか。」

福音とその力のビジョン

このようなときに必要なのは第三のビジョン、つまり福音とその力を見ることです。神が与えてくださったメッセージは、私たちがそのメッセージを子どもたちに教え、説明するときに聖霊が働いて、実際に人生を変える“力”を発揮するのだということを見て理解しなければなりません。力は私たち自身にあるのではなく、

力は、私たちが宣べ伝える福音のメッセージそのものにあります。聖霊はそれを用いて子どもたちの心に語り、罪を示し、罪から離れたたいという願いを与え、イエス・キリストを信頼する者として新しく生まれさせていただきます。ですから、私たちは自分が不十分だと感じたり落胆したりする必要はありません。私たちは不十分でも福音は十分だからです。

主イエスはマルコの福音書 16章 15節で弟子たちに、「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」と命じられました。弟子たちは、どれほど自分たちの不十分さを感じたことでしょうか。彼らは聖書学校や神学校で訓練を受けたことなどない漁師や取税人たちで、ましてや牧師や説教者でもありません。彼らにはあらゆる種類の個人的な疑いや問題がありました。それでも弟子たちは、命じられたことを行ないました。特別な方法や技術はありませんでしたが、与えられた機会のあるごとに“福音を語った”のです。

すると何が起こったでしょう。人々は彼らを「世界中を騒がせてきた者たち」（使徒 17:6）、「エルサレム中に自分たちの教えを広めてしまった」（使徒 5:28）と言ったのです。何千もの人々が救われ、教会が各地に生まれ、人々の人生も都市も国々も変えられていきました。こうして彼らが、イエス・キリストの贖いの死と復活という単純でまっすぐなメッセージを語り、復活のキリストが罪を赦し人生を変える方であると示し、悔い改めと信仰を迫ったとき、“神である聖霊が働かれた”のです。

ですから、神が子どもたちの必要をあなたの心に置かれ、何かをしななければならないと示されるとき、恐れったりためらったりする必要はありません。「自分には無理だ」と言う必要もありません。それはあなたの力で成し遂げるのではないから

です。あなたが子どもたちに語る福音のメッセージを、聖霊が用いてくださるときにのみ、神の力が現れます（使徒 1:8）。
“聖霊と福音を信頼してください。”

しかし同時に、福音とその力についての理解や信仰が、私たちの準備や伝え方をおろそかにする理由にはなりません。聖霊の働きを信頼していても、私たち自身がしっかりと準備し、原則に従って教える責任は少しも変わりません。

子どもたちは福音を必要としている

子どもたちに福音を伝える私たちは、福音と、その福音に働く力を新しく、より深く理解する必要があります。パウロもコリントで落ち込み、もう伝道が続けられないと感じたとき、主は彼に語りかけ、彼が宣べ伝えていた福音のメッセージにどれほど大きな力があるかを新しく示されました。パウロはこのとき、主ご自身が福音を通して、この町でご自分の計画を成し遂げられるのだと確信しました（使徒 18:9-10）。

今日、多くの子どもの働き手が、福音の代わりに別のものを用いたり、福音に何かを付け加えようとしたりしています。さまざまな技法を取り入れることで、働きが福音宣教というより娯楽のようになってしまうこともあります。私たちは信仰は聞くことから始まり、聞くことはキリストのことばによる（ローマ 10:17）ことを忘れてはなりません。活動そのものが悪いわけではありません。時間が許すなら工作や活動をするのもいいでしょう。が、こうした活動が福音のシンプルな教えに取って代わることが危険なのです。神が用いられるのは、この福音のメッセージだからです。

神はご自身のことばを祝福される

私は、若くて経験の浅かった頃のことをよく覚えています。当時私は、児童伝道者

として魅力的だと思いう視覚教材をいくつも持っていました。もちろん福音も入っています。しかし、福音はたとえ話や視覚教材の絵に埋もれてしまい、私はそちらの方を強調してしまっていました。子どもたちに興味を持ってほしくて、たとえ話や視覚教材の絵を増やせばもっと聞いてくれるだろうと私は考えていたのです。

ある日、私は自分の伝道方法について神に心を探られました。そして、私が強調しなければならないのは、神のことばそのものと福音のメッセージなのだということがわかり始めました。なぜなら子どもを引き付けるべきであり、また引き付けることができるのはみことばだからなのです。これは聖書が教えている真理です（イザヤ 55 章 11 節）。

子どもたちの必要のために働く私たちは、福音とその力について、新しく、より深く、より明確で、より良いビジョンを持つ必要があると思いませんか。聖霊が子どもたちに福音を教える私たちを励まし、支えてくださらないことなどあるでしょうか。
祈り

「愛する神さま、あなたが私に、子どもたちに届けるべきメッセージを与えてくださっていることを、はっきりと見て理解できるよう助けてください。そして最善を尽くして伝えられるよう導いてください。聖霊さまがそのメッセージを用いて、多くの少年少女を救い、祝福してくださることを信じます。」

（C E F 書籍ミニストーリー創設者・1997 年著）

C E F は働き人を募集しています。

日本 C E F (日本児童福音伝道協会)

〒311-3434 茨城県小美玉市栗又四ヶ 2421-6

TEL 0299(28)2031

Email : japancef@cef.or.jp

WEB : <https://www.cefjapan.com>

ゆうちょ銀行口座 : 00160-1-59313

他金融機関から :

〇一九(セー)イイイイ店 (019) 当座 0059313